

地域まちづくり推進協議会の合同会議が開催されました

旭川市内には、神居以外にも13のまち協（まちづくり推進協議会）があります。1月26日（火）、14のまち協が集まって年に一度の合同会議をCoCoDeで開催しました。西川市長のあいさつの後、地域再生で有名な豊重哲郎さんの「住民自治による感動の地域再生」と題した講演がありました。熱情をもって330人の小集落の再生に取り組んできた内容について熱弁されました。「ヒト」が財産。「ヒト」を感動させて「ヒト」を動かす。

私たち「ヒト」が「まち」を良くできるのです。カムイは「ヒト」人材の宝庫と感じております。旭川ももちろんです。ですからまず、私たち一人ひとりができることを個人として行う。

と同時に、私たちで構成する組織などでも目標を定め、その実現のため、組織構成員として「まち」をよくすることを実践していく。それにつきますでしょう。

その後、永山と東旭川のまち協の事例発表がありました。

合同会議でまち協の委員の皆さんも心を新たに事業に取り組まれることと思ひ、事務局としても目標達成に向けて委員の皆さんとスクラムを組んで前進していきたいと思ひました。

ぐわんばれ、カムイ！！ ぐわんばれ、旭川！！



第12号

平成28年

2月19日発行

- 主な内容——
- *カムin! 支所マルシェ
 - *サッカーゴール・バスケットゴールの設置
 - *忠和地区除雪協力委員会の活動
 - *消費者被害から身を守るための講演会
 - *かむい遊びの学校

カムイ新聞
まち協

お知らせ

神居公民館 「百寿大学」の生徒募集！！

神居百寿大学では60歳以上の方が年間19日34講座の中で講義を受け自己研鑽に努めているほか、実技で健康づくりもしています。

学生の意気込みと高い士気を一言一句に表したものを紹介します。

- ◆百寿で学び早16年 元気で楽しく 友と学べる幸せに感謝
- ◆年々歳々 新しい体験・経験があつて 老いるのも楽しい
- ◆参加することに意義あり ヒヤヒヤしながらも 老を楽しく

学生の皆さんは活気に溢れ、和気あいあいとした雰囲気の中で多くの仲間と楽しく学んでいます。あなたもお仲間に入りませんか？

●問合せ：神居公民館 Tel 61-2575（平日8:45～17:15）



決勝線＝ゴールライン

昭和40年代頃に神居中学校の裏で行われた旭川スキー連盟のスキー大会の様子です。（旭川市中央図書館所蔵資料より）

◆なつかしの風景◆

カムイ新聞のFacebookをご覧ください!!

「カムイ新聞」のFacebookでは、地域の様々な話題やイベント情報などを発信しています。景色などの写真も数多く掲載していますので、神居の知らない一面も覗けるかもしれませんよ！たくさんの「いいね！」をお待ちしております。また、神居支所では「カムイ新聞」のバックナンバーを配布しております。ぜひ集めてみてはいかがでしょうか？

..... あとがき

昨年の11月19日に国民保護共同実働訓練に参加させていただきました。自分は避難所である東部住民センターで避難・警備の担当だったため、室内の様子はまったくわかりませんでした。大型バス6台に分乗した避難者役のみなさんが、訓練とはいえ真剣に取り組んでいる姿がとても印象的でした。

次号予告 次号は今年8月に発行予定です。どうぞお楽しみに！！

記：S

◆◆ご意見・お問合せ◆◆

編集・発行：神居まちづくり推進協議会（まち協）

〒070-8012

旭川市神居2条9丁目1番19号 旭川市神居支所内 編集室

TEL 0166-61-2311 FAX 0166-61-8294

E-mail kamui_br@city.asahikawa.hokkaido.jp

まち協委員

石坂会長、佐々木副会長
荒木関委員、大河委員、笠原委員、小平委員、清水委員、林委員、廣瀬委員、藤原委員、古田委員、古山委員、三宅委員

カムin!支所マルシェが開催されました

今年度で3回目となる「カムin!支所マルシェ」が昨年の9月12日（土）雨が降ったり止んだり、晴れたり曇ったりのめまぐるしいお天気のもと開催されました。

地元の野菜や手作りお菓子、はちみつ、チーズ、江丹別そば等の出店のほか、キッズコーナーや介護相談、健康相談のブースに大変多くのお客様が来てくださいました。

今回は、新しい旭川のゆるキャラ「ゆっきりん」も登場し、子供にはもちろん、大人にも大人気で、会場を大いに盛り上げてくれました。

地元の皆さまに支えられ、地域に根付いたイベントになってこれた事を大変嬉しく思います。

また来年度も、皆さまに楽しんで頂けるよう頑張ります！！

ご参加頂いた皆さま、ありがとうございました。



神居中央公園にサッカーゴール・バスケットゴールを設置しました！！



旭川市内には多くの公園があり、様々な遊具が備えられていますが、中高生向けのはほとんどなく、幼児向けのものばかりです。そこで、神居まちづくり推進協議会では、部活動をしていない子どもたち、特に中高生が思い切り汗を流す機会が必要であると考え、大きな公園にミニサッカーゴールとバスケットゴールを設置して、事業の有効性を確かめることにしました。

平成27年度については、近隣住民の方のご理解を得て、神居中央公園にミニサッカーゴール、バスケットゴールを設置しました。

設置後は、子ども同士や親子でサッカーやバスケットを楽しむ光景をよく見かけるようになりました。



来年度も、雪解け後に再び設置します。また、他の公園にも設置していく予定です。ボールを持っていない方には、神居支所に来てもらえば、無料で貸し出しをしていますのでご利用ください。

たくさんのお子様たちのご利用をお待ちしております！！

お願い みなさんに長く使っていただくためにもルールやマナーを守って楽しんでください。壊れやすいのでバスケットのリングにのぼったり、サッカーゴールを動かすことはやめてくださいね。



忠和地区除雪協力委員会の活動について

1年の半分を雪と共に暮らす旭川市民にとって、適切な除排雪と、安心・安全で快適な道路網の確保は、市民生活を営む上で大変重要であります。

忠和地域は、旭川市内でも豪雪地帯と言われており、どうしたら安心・安全で快適な冬の生活を送られるかが大きな課題です。そんな中、忠和地区市民委員会では、平成13年度より「忠和地区除雪協力委員会」を組織し、行政、企業体、地域住民が三位一体になって、雪対策の適正化と効率的な除排雪事業の為に力を出し合いながら成果を上げてきました。



本年度は、11月30日に第1回地区除雪協力委員会(各町内会長・協力委員含めて57名で組織)が開かれ15年目の活動が始まりました。

これまでは手弁当で活動してきましたが、今年は市の行政提案型地域除雪事業として補助金を受け、違法駐車や道路への雪出し禁止の啓発活動、地域住民の要望事項のとりまとめ、子供の登下校時の見守り活動や通学路の確保のため融雪期まで活動を続けたいと思います。

多様化、複雑化する市民ニーズの増大や除雪マナーの低下、さらには、様々な社会環境の変化などにより地域における雪の課題も少なくありませんが、この事業を継続したため地域住民の理解も大きく進み、「市民一人ひとりが決まりを守る」という意識が向上し、違反事項も減りました。その成果を更に充実したものとするために、無理せず、できることから活動を続けたいと思います。

多様化、複雑化する市民ニーズの増大や除雪マナーの低下、さらには、様々な社会環境の変化などにより地域における雪の課題も少なくありませんが、この事業を継続したため地域住民の理解も大きく進み、「市民一人ひとりが決まりを守る」という意識が向上し、違反事項も減りました。その成果を更に充実したものとするために、無理せず、できることから活動を続けたいと思います。



文責：佐々木 和雄



消費者被害から身を守るための講演会

10月28日(水)「消費者被害から身を守るための講演会」が開催されました。

「もう振り込め詐欺にはだまされない～被害防止のいろは～」では、最初にDVDの上映が行われました。「おばあさんにかわいい孫から電話がかかってくる。女性を妊娠させてしまった。どうしよう。早く示談金を渡さなければ大変なことになる。助けてー。」という内容。もちろん、孫のふりをした振り込め詐欺師が、言葉巧みにおばあさんをだまして、お金を振り込ませようとする罠。危機一髪!「お孫さんに、もう一度電話をかけてみたら?」

という銀行員の一言に助けられたという内容でした。

次に、「帰ってきた!振り込め屋金蔵」の寸劇が行われました。地区の防犯部長が犯人やおばあさんの役になりきっての寸劇は、途中笑いもありで、皆さん楽しく見ている様子でした。

「旭川市でも実際におこっているの、気をつけて!」と中央警察署生活安全課生活安全係の水野明宏係長は話します。

1. 電話で、家族のフルネームを言われても、すぐに信用しない!
——犯人は、色々な方法であなたの情報を調べています。
2. 「携帯電話の番号が変わった。」「風邪をひいてのどの調子が悪い。」は要注意!
——以前の電話番号にかけてみる。職場に電話をかけてみる。ことが有効です。
3. 自分1人で抱え込まない。悩まない。誰かに相談をしましょう!
——家族の緊急時に冷静な判断はできないものです。だからこそ相談しましょう。



被害に遭った人は、自分は大丈夫だと思っていた。だまされるわけがないと思っていた人だそう。日頃の心がけが大事なのだと感じました。

「わかりやすい成年後見制度のお話し」では、旭川成年後見支援センターの松林邦昭センター長が文字どおりわかりやすくお話ししてくれました。

成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害等のために判断能力が十分ではない方が、「契約」をしたり「財産管理」をすることが難しい場合に、本人に不利益が生じないように支援する人(後見人)を設ける制度です。

成年後見支援センターは、お年寄りや障がいがある方の「生活」や「財産」に関する不安や困りごとについて相談に応じ、本人が安心して暮らしていくための環境づくりのお手伝いをしてくれるところです。自分のことや家族のことで心配のある方は相談してみたいはいかがでしょうか?



暴風雪による被害に遭わないために

近年、吹きだまりや視界不良による死亡事故が発生しています。暴風雪が予想される時は、外出を避けましょう。やむを得ず車で外出するときは次のことに注意してください。

- ◆車が立ち往生する可能性があるの、防寒着、カイロ、長靴、手袋、スコップ等を車に用意するとともに、十分に燃料があるか確認して出かけましょう。
- ◆地吹雪などにより視界が悪くなり、運転をしていて危険を感じたら、無理せず、道の駅やコンビニエンスストアなどで天気の回復を待ちましょう。
- ◆車内で救助を待つときは、車のマフラーが雪に埋まって排気ガスが車内に逆流し一酸化炭素中毒を起こす危険性がありますので、エンジンを切ることが大切です。防寒着や毛布等で体温の低下を防ぎましょう。

防災安全部 防災課より



かawaii遊びの学校 ～第2弾 ハイキングと宝探し

「子どもたちに外で遊んでもらいたい」そう思って、神居まちづくり協議会は、10月10日(土)にハイキングと宝探しを企画しました。

神居支所からカムイの杜公園まで、自然を楽しみながらハイキング。カムイの杜公園では、思いっきり体を動かして遊びました。当日は、肌寒い、雨が心配な天気でしたが、子どもたちの元気な声に雨雲も消えてくれて、1日中外で過ごすことができました。最初は緊張していた子どもたちも、片道3kmを歩いているうちに、すっかりうちとけた様子。途中、荒木関委員の草花の解説も聞きながら、それぞれの学校の話、兄弟げんかの話なんかも飛び出して、長い道のりも楽しいおしゃべりタイムとなりました。

カムイの杜公園では、おいしいお弁当の後、宝探しや中高生のお兄さんたちとおにごっこをして、たくさん体を動かしました。

「昔は、近所の子どもたちが空き地に集まって、年齢に関係なく遊んでいたよ。年上の者が小さな子の面倒を見てということが当たり前に行われていたなあ。兄弟もたくさんいたから、いつも大人数で。そこで、人間関係だとか上下関係なんかを自然に覚えたり、ケンカの正しいやり方も教わったものだ。今は、一人っ子も多いし、安心して子どもが外で遊べない環境になってきたから、なんとかしたいよね。」

子どもたちの楽しそうな表情を見ていると、私たち大人は、この笑顔を守っていかなければいけないなあと感じました。

子どもたちの楽しそうな表情を見ていると、私たち大人は、この笑顔を守っていかなければいけないなあと感じました。



健診を受けましょう!

立春を過ぎても厳しい寒さが続いています。皆さんは体調崩していませんか?

旭川市保健所の神居地区担当保健師の浅沼と佐藤です。

皆さん年に1回健診は受けていますか?自分の身体をチェックすること、それが生活習慣病を防ぐ第一歩です。そして健診結果を振り返ることがとても大切です。

「健診結果がよくわからない」、「数値が高いけれど、どうしたらいいの?」

こんな時は私たちの出番です!保健師・栄養士と一緒に結果を振り返りたいと思います。

- ①健診を受ける
- ②結果を振り返る
- ③生活を見直す

この3つを繰り返すことが生活習慣病の予防となり、「毎日の健康」につながります。



※旭川市国保特定健診は3月31日まで受診でき、定期通院されている方も対象です。受診券を紛失された方は再発行できます。また、旭川市国保以外の医療保険に加入されている方の特定健診については、加入されている保険者にお問い合わせください。

旭川市保健所 保健指導課 TEL 26-2397

神居火の神神社が 創建100年を迎えました

明治の終わりに火災が頻発したことから、防火意識を高め維持するため、大正4年に住民が建てました。当初、現在の両神橋に近い美瑛川の河川敷に建立されましたが、大雨で流されないように昭和35年に現地に移転。

その後、毎年8月7日に地区の3町内会があんどん行列や子供みこしなどで賑わう夏祭りを開催してきましたが、子供が少なくなり、地域住民が毎年お参りをするだけになっていました。

昨年8月7日、100周年を記念し、



「火の神神社」所在：神居1条10丁目



神居神社から宮司を招き神事や祝賀会を行いました。実行委員長で神居中央町内会の三宅国博会長は、「神社の歴史を深く胸に刻み、今後も子々孫々に伝えていきたい。」と語りました。